

世界が注目するアジアの展示会動向 持続するアジアのダイナミズム

2019年1月21日 日展協国際化推進委員会セミナー

寺澤 義親

一般社団法人日本イベント協会 理事 イベント総合研究所 主席研究員

目次

1. 持続するアジアのダイナミズム

- 1) 施設建設・拡張が進み世界のシェアも拡大する
- 2) M&Aや連携等が加速
- 3) 国際交流の重要拠点に

2. アジアの展示会動向

- 1) 販売展示面積
- 2) 推定収入金額
- 3) 施設規模

3. 日本の国際化の現状

4. 進むべき国際化の方向

持続するアジアのダイナミズム

1) 施設建設・拡張が進み世界のシェアも拡大

2011年から2017年の変化を見ると：表1参照

世界は：3230万㎡、1,195施設 → 3,480万㎡、1,212施設 7.7%増（屋内施設規模） 1.4%増（施設数）

アジア太平洋のポジションは：

○施設規模(屋内)は：2011年→2017年

660万㎡→822万㎡（欧州：1580万㎡、北米：817万㎡）

○施設規模伸び率は：

24.4%増（欧州：3.7%増、北米：2.9%増）

○施設数は：184施設→203施設/19施設増加（欧州：496施設/同数、北米：394施設/5施設増加）

○世界に占めるシェアは：

20.4%→23.6%（3.2%増）（欧州：45.3%（1.7%減）、北米：23.5%（1.1%減））

○全施設の平均規模：

40,487㎡（欧州：31,771㎡、北米：20,738㎡ 世界平均：28,578㎡）

中国の発展効果が大きい→中国の施設規模(575万㎡)は世界2位で全体の16.5%、アジアの70.0%を占める

注：世界1位は米国(685万㎡)で世界全体の19.7%、3位はドイツ(322万㎡)で世界全体の9.3%。

世界トップ10施設(規模)のうち中国3施設、ドイツ4施設が含まれる

表 1 : 展示会施設規模の動向 (欧州、北米、アジア太平洋) 2011年/2017年

表 1 : 施設規模の動向 (世界)

地域	2011年			2017年			
	施設規模 単位：100万㎡	施設数	世界に占める シェア	施設規模 単位：100万㎡	施設数	平均規模 (㎡)	世界に占める シェア
欧州	15.2	496	47.0	15.8	496	31,771	45.3
北米	7.9	389	24.6	8.17	394	20,738	23.5
アジア太平洋	6.6	184	20.4	8.22	203	40,487	23.6
世界全体	32.3	1,195	100.0	34.8	1,212	28,578	100.0

出所：UFI World Map of Exhibition Venues 2017 Edition (Revised January 2018)

2) M&Aや連携等が加速

○Informa(英) :1998年設立。

18年 UBM(英) を買収(38億ポンド) : グローバル事業の拡大のためUBMのアジア事業獲得を狙った。

UBMは16年 Allworld Exhibitions(英) を買収、アジア11か国、51件のトレードショーや石油ガス分野獲得。

UBMは中国、インド、マレーシアでは最大の民間主催者。

18年にUBMはECMI ITE Asia75%買収→ECMI Asiaはベトナム、インドネシア、マレーシアで Cosmobeauteを開催。

マレーシア、インドネシアでLab seriesを開催。

○ITE Group(英) :1991年設立。ロシア、東欧、トルコ、アフリカに強かったが最近は中国(8)、

インド(24)、インドネシア(1)、マレーシア(1) で事業を拡大。12年インド進出、13年中国に進出。

14年インドネシア合弁事業。13年にECMI(マレーシア)50%買収、18年に25%買収、

その後75%をUBM子会社(Informaの一部) に売却。Trade Link ITE(工作機械) もUBM子会社(Informaの一部) に売却。

○Tarusus(英) :1998年設立。米州(米国、メキシコ、中南米)、アジア、中近東・アフリカが主な市場。中国で20件以上のイベント開催、

有力な主催者に成長。東南アジアではインドネシア、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、フィリピンに拠点。

ドバイのエアショー・印刷分野の展示会。上海でLabel Expo Asia開催(03年) Tarusus Exhibition(上海)設立(09年)

12年にAAITF主催者(広州) 50%買収。13年にPT Infrastructure Asia 51%買収。14年にDMGと合弁企業(Construct Indonesia開催)

15年にAMB Tarusus50%買収(フィリピン、ミャンマー、カンボジア、スリランカ、ラオス) 16年にインドネシアでDMGと合弁設立

(Index in Indonesia開催)、CES AsiaとMusic Chinaの主催者 (ShanghaiIntex Exhibition)50%買収。

PT Infrastructure Asia 100%取得。17年にIntertraffic Indonesia開催のためRai Amsterdam と協力。

バングラデシュでBangla Livestock開催。インドネシア国際ペット展示会を買収。

18年にAsian Exhibition Service(バンコク)との合弁会社でLabel Expo Southeast Asia開催。

2) M&Aや連携等が加速

- ドイツメッセ：18年バンコクでIMPACTとの連携でCebit ASEAN Thailandを開催。
シンガポールでSingapore Expoとの連携でIndustrial Transformation Asia Pacific&Hanover Messe Eventを開催。
- Comexposium(仏)：15年にGSA Exhibitions(シンガポール)とGlobal Security AsiaとMilipol Eventで提携。15年からMilipol Asia Pacific(2年毎、安全、防衛)を開催。
15年からはIMPACT(タイ)AXEMA(仏農業機器)とSIMA ASEAN Thailand(毎年、農業)開催
17年にIMPACT(タイ)とINTERMAT Asean(建設・インフラ)初開催。
18年はCONCRETE Asia(4回目) &INTERMAT Asean(17年から) 同時開催。
2001年からKrista Exhibitions(インドネシア)と提携してSIAL Interfood Indonesiaを開催。
2017年インドネシアのAmara Groupと合弁企業設立(Indoneia International Auto Show提携)
バス・トラックショー(2018年)
- Mack Brooks Group(英)：1965年設立。英国、米国、中国、タイ、インドに拠点。
Mack Brooks Exhibitions Asia Ltd(バンコク)を設立しInter Airport Southeast Asia2019(空港)を開催(シンガポール、2年毎、6回目)。その他BLECH2019(Sheet metal)をインド(6回目、ムンバイ)、中国(4回目、成都)で開催。Expo rail 2019(鉄道)をインド(ニューデリー)、ICE Southeast Asia2020(カートン)をバンコクで開催。2019年1月Reed Exhibitionsが同社を買収することで合意。(19年前半に取引詳細が決着する予定)

2) M&Aや連携等が加速

- Closer Still Media(英) : 2006年設立 ロンドン、パリ、ニューヨーク、ベルリン、シンガポール、香港に拠点。過去6年で毎年売上が40%以上増加。
Singapore Vet Associationその他機関と連携してSingapore Vet (獣医) 2019を開催する。
投資ファンドProvidence Equityが同社の大半を買収(3億4000万ポンド)。
- Media 10 Limited(英):2002年設立 ロンドン、グラスゴー、上海、ケープタウンに拠点。
100%design, 100%optical, Design Shanghai, UK Construction Week開催。
1908年に創設され110年の歴史を持つIdeal Home Show(世界最古の消費者ショー) を2009年に買収、2017年に上海(上海万博展示会コンベンションセンター)で開催。次回は3 /14-17/2019。
- Fresh Montgomery(英) がSpeciality & Fine Food Asiaをシンガポールで開催(2017年から)
- VNU Exhibitions Asia(上海) とThe Italian Exhibition Group(IEG)は中国とイタリアでの事業拡大のため合弁企業European Asia Global Link Exhibitions(EAGLE)(上海)設置(2018年)

3) 国際交流の重要拠点に

- 2019年：
- UFI 年次総会(11月) はバンコク開催。 ○UFI Asia Pacific Conference(3月)は東京開催
 - SITE(Society for Incentive Travel Excellence)2019 Global Conference(1月) バンコク開催
 - PCMA Asia Pacific Annual Conference2019がマカオで開催 (11月)
 - UFI Exhibition Management Degree(EMD)プログラム2019はマカオで開催(6月、6回目)
→Macao Fair&Trade Associationがホスト
 - UFI-VMA Venue Management School (China)開設(2017年から)
→Venue Management Association in Australiaと協働で中国施設向けの研修プログラムを開始(上海)

○SACEOS(Singapore Association of Convention and Exhibition Organizers and Suppliers):

- 1) 1979年設立。独自の人材育成プログラム、PCM(Professional Conference Management), PEM(Professional Exhibition Management), Professional Event Managementを実施。アジアで唯一国際的に認められる資格プログラム IAEEのCEM(Certified in Exhibition Management)やCMP(Certified Meeting Professional)を実施している業界団体。2014年にはPCMAとEICのCMP取得準備とPCMAのCertified Association Sales Executive取得についても提携協力を締結。2018年にはUFIと能力開発と幹部養成プログラム(The Asia Pacific Executive Development Program)のMOU締結。
- 2) AFECA設立の中心的役割。初代と2代目のAFECA会長を輩出。AFECA総会、UFI総会、アジア太平洋会議誘致でも中心的役割。UFI, IAEE, PCMA, AFECA等国際団体との連携強化。Global Exhibitions Dayにも参加。
- 3) 主催する国際セミナーSingapore MICE Forum(2011年開始) は毎年開催。
SMF2018は31か国から489人参加。世界のMICE業界向けの将来提言Singapore Manifestoを採択。

3) 国際交流の重要拠点に

○Thailand Convention&Exhibition Bureau(TCEB):2002年設立 政府機関

- 1) タイの政府機関、民間業界団体 (Thai Exhibition Association, Thailand Incentive and Convention Association) をまとめてMICE推進の司令塔・機関車役を担う。
- 2) MICE教育・人材育成の国際ハブとして実績を獲得。国際団体と連携して評価の高い資格プログラムを実施。
→UFI Exhibition Management Degree(EMD)、IAPCO EDGE Seminar, Certified Meeting Professional (MPI)
Certified in Exhibition Management(CEM)by IAEE, Certified Incentive Specialist(CIS) by SITE,
Professional Destination Management(PDM)by Destination International
Sustainable Event Professional Certification開催 (Event Industry Councilと共催)
- 3) International MICE Conference&Forum開催(2018年から)
その他Special Meeting on ASEAN MICE Venue Standards開催 Thailand MICE Forum開催
Global Exhibitions Dayにも参加。

○Malaysian Association of Convention and Exhibition Organizers and Suppliers(MACEOS):1990 年設立

- 1) 政府機関Malaysia Convention and Exhibition Bureau(MyCEB)と連携してMICE促進。
- 2) MyCEBと連携してAFECA-ASEAN Committeeを設立(2017年) : AFECAメンバー間のビジネス拡大を目的
UFI, AFECA 加盟。AFECA10周年イベントをホスト。機関誌BE Magazine 発行。
UFI Asia Pacific Conference2018をMyCEBと連携してホスト。Business Event Excellence Award実施
- 3) IAEEとPCO Association of Australiaと戦略パートナー締結(2015年) 、Global Exhibitions Dayにも参加。
Professional Exhibition Management, Professional Conference Managementプログラムを実施

2. アジアの展示会動向 (表2参照)

1) 販売展示面積：17か国・地域全体で前年比7%増の2,230万㎡に

○中国が引き続きダントツのトップ、日本は2番目。インド、韓国も伸ばし4か国が100万㎡規模以上に。ASEANではタイが引き続きダントツのトップ。マレーシアが過去6年で初めてシンガポールを抜く。

○全体に占める中国のシェアは拡大、日本は減少、インドは増加、香港は減少、韓国も減少。

国名	2011年のシェア	2017年のシェア
中国	54.9%	58.3%
日本	11.7%	9.5%
インド	4.9%	5.3%
韓国	5.1%	4.6%
香港	5.5%	4.3%

2. アジアの展示会動向

2) 推定収入金額：全体で55億7,000万米ドルと推定され前年比6%の成長

○トップの中国、2番目の日本は変わらず。販売展示面積で伸び悩む香港は前年同様3番目で国際展示会が強いことを示している。インドは販売展示面積が増え3番目だが収入は6番目と稼げていない。タイはASEANで収入でもトップ、マレーシアは販売展示面積でシンガポールを抜いたが収入では追いついていない。

○全体に占めるシェアは中国は拡大、日本は減少してるが販売展示面積ほど落ち込んでいない。インドはやや増加。香港は減少、韓国はやや減少。

国名	2012年のシェア	2017年のシェア
中国	35.0%	41.0%
日本	22.1%	18.0%
インド	4.3%	4.6%
韓国	5.8%	5.5%
香港	9.4%	7.4%

2. アジアの展示会動向

3) 施設規模：2018年末時点で施設規模は屋内で910万㎡(前年比10.7%増)に、施設数は230(前年比12施設増加)に達すると見込まれる。

○2019年中に日本、中国、台湾、インド、豪州で施設建設・拡大が見込まれている。

○Shenzhen World Exhibition and Convention Center(SWECC):深せん(中国)

2019年6月に第1期工事終了、後半にソフトオープニング予定。屋内40万㎡。

2期工事が終了すると屋内規模は50万㎡となりハノーバー(屋内46万㎡)を抜き世界1位の規模に。

UFIのゴールドスポンサーになる(2018年)

○ India International Convention&Expo Center(IICC):インド,Dwarka,New Delhi

(デリー国際空港から10kmの位置)

インド中央政府のプロジェクト。90ヘクタール地域開発の一環。第1期工事が2017~2019年。

第2期工事が2025年までに。

世界規模の施設目標。19年中に6万㎡規模の展示ホールと会議場建設。

将来G20開催場所にする計画。

施設運営は国際入札を経てKINTEX(韓国)が20年間の運営権を獲得。

表 2 : アジアの展示会産業ランキング (2017年)

表 2 : アジアの展示会産業ランキング (2017年)

国・地域	推定販売展示面積 (㎡、2017年)	推定収入金額 (US\$, 2017年)	展示施設規模 (屋内、㎡、2018年末) (施設数)	展示会開催件数 (確認ベース、2017年)
中国	13,018,500	2,290,743,500	6,682,744 (120)	704
日本	2,119,500	1,005,546,500	373,409 (14)	305
インド	1,187,000	260,426,500	388,780 (16)	204
韓国	1,027,000	307,154,000	268,032 (14)	171
香港	967,750	417,771,250	149,820 (2)	90
台湾	847,750	202,786,750	117,178 (5)	138
豪州	643,500	299,142,750	205,997 (12)	195
タイ	639,250	218,087,250	252,523 (10)	92
マレーシア	385,500	130,126,500	127,135 (7)	83
シンガポール	375,750	169,361,500	219,970 (4)	74
インドネシア	263,000	71,085,000	120,135 (9)	77
マカオ	217,500	53,872,250	76,715 (2)	26
フィリピン	210,000	33,584,750	36,635 (5)	59
ベトナム	209,500	60,093,250	22,278 (3)	69
パキスタン	100,750	25,481,000	37,191 (2)	34
ミャンマー	71,500	24,187,000	13,000 (3)	24
カンボジア	17,000	5,089,000	11,156 (2)	8
合計	22,301,250	5,574,538,750	9,102,698 (230)	2,353
前年比伸び率	7.0%	6%	10.7%	3.5%

出所 : UFI-BSG Research The Trade Fair Industry in Asia 2018 (2018年7月)

3. 日本の国際化の現状

業界団体：

1. 業界団体の基盤が脆弱。欧米やアジア一部にみられるMICE業界全体をカバーする組織がない。
→作業現場の安全や会場のセキュリティ等共通の課題解決に向け業界が結束する取り組みが十分にできていない。
2. UFI, IAEE, AFECA等の国際団体への活動参加、交流活動に関心が低い。
→定期的な国際セミナー開催を含め海外との交流活動ができていない
→年次総会・関連活動の誘致に関心が低い。積極的に参加できていない。
→Global Exhibitions Dayにも業界団体として参加していないように世界との交流があまりできていない。(2016年から、19年は6月5日開催予定)
3. 業界動向のデータを取りまとめていない。
→情報発信が十分にできていない

3. 日本の国際化の現状

展示会・イベント主催：国内市場が中心

1. 2000年前半と比較すると一部の展示会では海外の出展者・来場者が格段に増えている。
JECC認定の国際展示会も誕生している
→(2012年9月第1号認証から2018年7月の第79号認証までの期間に47件が国際展示会)
しかしながら世界で知られている国際展示会やブランド力の強い展示会はまだまだ少ない。
→(UFI認定展示会は3件:FOODEX, JIMTOF, Nanotech)
2. 海外で展示会を主催する企業が少ない。
→日本食(シンガポール)、ギフト(上海)、トラック(バンコク)、
メンテナンス・インフラ(バンコク、2019年10月)
3. 国際団体に加盟する主催者が少なく、国際交流に積極的に参加する企業トップが限られている。
4. 一方、最近では諸外国の日本市場への関心が強まり日本上陸の展示会イベントが増えている。
Slush Tokyo(15年から) Stadia&Arena(16年から) Japan Gaming Congress(16年から) 東京コミコン(16年から)
一部グローバル企業日本法人の取り組みは国際化にプラスになっている→
IFF-MAGIC(17年から開催、19年3月中止)→Project Tokyo(19年) Licensing Expo Japan(17年から)
5. サービスプロバイダーでは海外拠点を設置する企業も増えているが海外事業の売上・比率は低い。
現地企業、グローバル企業とのビジネスはまだ少ない。

3. 日本の国際化の現状

施設:国内市場(国内の顧客)が中心

1. 首都圏及び大展連所属の施設のインフラ・設備水準は国際水準をクリアしている。一部施設はWiFiアクセス環境を含め海外と比較しても高いレベルにある。特にメンテナンスの意識及び実施レベルは高い。
2. Sustainability に関するISO20121認証を取得している施設はないが、一部施設のエネルギー節約、エネルギーコストの抑制努力、環境対応、地域貢献は世界水準でもトップクラスにある。会場の安全確保やリスクマネジメントの意識や取り組みレベルは高い。
3. 海外の出展者・来場者が多い施設の各種サイン、ウェブサイト、パンフレット、設備説明の外国語表示は格段に改善されている。国際会議が多く開催される一部施設の外国語対応は進歩的である。しかし、その他多くの施設ではウェブサイト、各種サイン、パンフ等の外国語表示は不十分である。
4. 施設の利用申し込みは国内を基本にしていることから、海外からの直接申し込みへの対応については制限的な状況がある。
5. 一部施設はUFI等の国際団体への加盟や海外の施設との交流に取り組んでいる。しかしながら海外人脈の確立や海外への積極的な情報発信については十分にできていない。

4. 進むべき国際化の方向

業界団体：

1. UFI, IAEE, AFECA等の国際団体への加盟登録・諸活動に積極的参加する
 - 日展協は2016年にUFIのAssociation memberとして加盟承認された。
AFECAには2005年から加盟（かつては理事・副会長就任したが）
 - 日本能率協会はUFI, AFECAに加盟(UFI理事就任)
 - 日本ディスプレイ業団体連合会はAFECAに加盟
→理事就任、年次総会には毎回参加、人材育成プログラム（AFECA Youth Challenge）の
スポンサー、関西大学の参加支援）
2. 国際団体や海外との積極的な相互交流
 - 年次総会・その他行事をホストする、国際セミナーを開催する
日本はアジアで初めてUFI総会を1982年に、その後1996年と2回年次総会をホスト。
2002年には日本展示会主催者協会（日展協の前身）は35周年行事としてUFI会長、中国、香港、
韓国、シンガポールの業界代表を招聘して国際セミナーを開催するなど海外との交流も実施。
最近は韓国との交流を数回実施したが、UFIやAFECA総会を含めホスト行事を開催できていない。
2015年12月にIAEE, AFECA代表を招聘して日展協がJapan Exhibition Forumを開催。
 - 東京ビッグサイトがUFI AsiaPacific Conferenceをホスト（2019年3月14日～15日）
 - 世界で活躍する業界リーダーを輩出する
3. 世界への情報発信
 - ほとんどできていない。 業界データの取りまとめ&調査活動の実施→外部への発信

4. 進むべき国際化の方向

主催者(一部サービスプロバイダー含む) :

1. 公式サイト・出展規約の英語版を作成する
英語(中国語、韓国語、その他言語)対応スタッフを配置する
海外対応人材を増やす。
2. 海外出展者・来場者(バイヤー)を増やす。
3. 国際展示会・イベントを増やす→JECC認定国際展示会を増やす。UFI認定国際展示会は3件
4. 海外人脈・パートナーを発掘する→海外事業を開拓する。
5. 海外拠点の設置を含め海外ネットワークを拡充する。
6. 売り上げに占める海外事業の比率を増やす
7. UFI, AFECA, IAEE等の国際団体に加盟して積極的に諸活動に参加する。
8. 企業トップが国際交流活動に積極的に参加する。

4. 進むべき国際化の方向

施設：求められている国際化水準は施設で異なる

1. ウェブサイト、施設紹介パンフの外国語表示
2. 施設内の各種サインの外国語表示
3. 総合案内、電話受付の外国語対応
4. 海外からの利用申し込みを受け付ける
→利用規則、利用申込書の英語版
→日本への関心が強くなっているので今後問い合わせ、利用申し込みが出てくる可能性が高い。
5. 海外施設との交流、相互訪問
6. 国際団体への加盟・交流活動の促進
7. 海外対応人材の育成強化
8. 主催事業含め海外事業の強化を目指す場合、
アジアの施設では韓国のCOEX、KITEEXにSingaporeExpo（シンガポール）はモデルになる。

注：COEX(韓国)：ベトナム、タイでの展示会主催、世界の施設とのネットワーク設置

KINTEX(韓国)：インドの大規模施設の運営権獲得

SingaporeExpo：International Association of Convention Centers(AIPC)のPresident就任

SACEOS(業界団体)のPresident就任(19年の3月から)

自主事業：6か国、10都市で24件のイベント開催 海外拠点(3か所)設置(18年9月)

ご清聴ありがとうございました。

より詳しい情報は YOSHICHIKA.423@HOTMAIL.CO.JP

本プレゼンは個人的見解を反映しています

本資料の無断転載はご遠慮ください

寺澤 義親

株式会社 幕張メッセ 常務取締役コンベンション事業本部長(2010年6月～2015年6月) 特別参与(2015年6月～2016年6月)

一般社団法人 MICE総研 特別研究員(2016年7月～)

一般社団法人 日本イベント協会 イベント総合研究所 主席研究員(2016年11月～) 理事(2018年6月～)

○1973年4月にジェットロ入会后、アジア事業、海外調査、内外の展示会、博覧会業務を多数経験。海外展示会では特にアジア、欧米、中近東での日本企業の参加取りまとめと単独展示会の開催を経験。ハノーバー国際博覧会日本館事務局長、展示事業部長を務め海外はシカゴ、トロント、シンガポールに勤務。

2010年6月ジェットロ退職、(株)幕張メッセ 常務取締役に就任。2010年から日本展示会協会国際化委員会副委員長(～16年)、アジア展示会コンベンション団体連盟(AFECA)の理事・副会長(～2015年)、2011年から2014年まで国際見本市連盟(UFI: The Global Association of the Exhibition Industry)の理事(Member of Board of Directors)に就任。

○著作:「米国経済のハンドブック」(1982年、東洋経済新報社、共著)「米国、カナダのビジネスガイドブック」(1981年、84年ジェットロ)「世界の展示会と日本の課題」(2003年～06年、ジェットロ)「国際博覧会業務の手引き」(2005年、ジェットロ)

「展示会活用マーケティング戦略」(2006年、ピーオーピー出版)「ProXo: A Practical Guide For Professional Exhibition Organizing」(2011年、シンガポール発行)に寄稿。

その他国際開発ジャーナル(2011年3月号)、「時評」(08年10月号)、日本観光研究学会機関誌「観光研究」(2010年9月号)イベント研究第9号(イベント総合研究所2018年3月号)、「EventBiz」、「見本市展示会通信」、「MICE Japan」、「MICE総研 メールマガジン」など関連誌・紙に寄稿多数。

○博覧会業務: 沖縄海洋博覧会(1975年)、ノックスビルエネルギー国際博覧会(1982年、米国)、ニューオーリンズ国際博覧会(1984年、米国)、テジョン国際博覧会(1993年、韓国)、ハノーバー国際博覧会(2000年、ドイツ)、日本国際博覧会(愛知、2005年)、サラゴサ国際博覧会準備(2008年、スペイン)